

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 03 03	中期総合計画主要施策番号		3-08	担当課	部・課	林務部 森林づくり推進課	
事業名		県単治山事業(県単【治山】)					内線	3261	
							E-mail	shinrin@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	公共治山事業の採択要件を満たさない小規模な災害発生箇所における復旧、または応急対応、既存の治山施設の機能維持を実施し、県民の安全・安心な暮らしを確保する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 自然災害による山地災害の増加や、古い治山施設の老朽化による機能低下が進んでいる。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 集中豪雨の増加、急峻脆弱な地形・地質、放置林の増加、施設の維持管理不足等が原因となっている。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 被災箇所の早期復旧、応急対応、施設の適切な維持管理を行う必要がある。							
	事業内容	災害発生時の応急対応、既設治山施設の土砂除去や補修等、施設の機能を維持向上するための管理工事、小規模災害発生箇所の整備を行う。							
実施期間	S29 ~	根拠法令等		森林法第41条、地すべり等防止法第7条					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	災害発生時の応急対応や復旧整備を行い、山地災害の復旧を図る。		緊急を要する箇所での応急対応や復旧工事を行う。			56箇所での復旧工事を行い、うち3箇所での応急工事を実施し、山地災害の復旧が進んだ。		a.期待以上 b.期待どおり	
	既存の治山施設の土砂除去や修繕など、計画的な維持管理を行う。		維持管理が必要な15箇所での対策工事を実施する。			15箇所での維持管理工事を実施し、既存施設の機能の回復が図れた。		c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	386,530	244,377	195,503	国庫・県単 県単		
	決 算 額 (B)		千円	410,706	272,180		実施方法 直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	58,706	41,743	49,503	歳出節別内訳等 予算現額(最終予算額+繰越額) 317,457 1箇所当たり平均工事期間 1年		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	25.00	25.00	25.00	(単位: 千円)		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	410,706	272,180	195,503			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	事業実施箇所数		箇所	83	71	77	H20年度完了箇所数:96箇所		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・H18年7月、H19年9月等の集中豪雨、H19年5月の地すべりなど、山地に係る土砂災害の発生が増加傾向にあり、また、老朽治山施設の増加から、事業のニーズは高い状態で推移している。 ・森林法等により、施設整備は県が行うものとされている。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括		・緊急対応については概ね期待どおりの成果が得られており、今後も引き続き早期復旧に努めていく。 ・施設数は年々増加し、老朽化も進行することから、維持管理工事の計画的な実施について検討する必要がある。						